



今どきコラムー40

中国雑談

低下している在中米国企業の投資拡張意欲

「中国では外資企業が今までのように歓迎されていないと考えている」と在中米国企業に対する調査では、81%の調査対象企業がそう答えている。半分ぐらいの企業が、「現地企業に比べて、在中米国企業は政策・実行面で『不公平な待遇』を受けている」と考えているが、「現地企業と同等の待遇を受けている」と考える企業も40%あった。また、10%は、「自社は中国企業よりも優遇されている」と答えている。

2017年の「中国ビジネス環境調査レポート」が1月18日、在中国米国商工会議所とベイン・アンド・カンパニーの連名で発表された。この「レポート」では、462社の商会メンバーを調査対象としている。

調査結果では、中国を「三大投資先」とした在中米国企業は現在大幅に減少しており、2009年の78%から2017年には56%にまで減少している。工業と資源分野においては、中国の投資歓迎度の下落が最も明らかである。53%の企業が、「中国はいくつもある投資先の一つに過ぎず、優先して考える対象ではない」と答えている。

中国における投資鈍化の主な原因は何か。外資企業自身は市場参入で障壁に直面していることを主な原因の一つと考えている。もう一つの大きな原因は、中国の経済成長が鈍化するとみられること、あるいはその他の国・地域の経済成長がより速いことである。2016年の調査と比べると、中国での投資鈍化の原因を中国の経済成長の鈍化の結果とする企業が36%から25%に減り、「政策の不確定性」という要素による影響だとする企業が増え、その割合は2016年の10%から今年は18%に上昇している。

同レポートの調査によれば、「監督の透明度」が米国企業の中国における投資に影響を与える最大の要因である。86%の企業は、この要因が投資に与える影響は比較的明らかであると答えている。さらに回答企業は、「中国の政策・法規解釈が一貫性を欠くこと」と「労働力コストの増加」が中国のビジネスにおける二大問題と考えている。注意に値するのは、



「中国の保護主義が絶えずアップグレードを続けている」という考えが、中国における米国企業のビジネス問題の三番目となっていることである。この要因は、2016年の調査の中ではトップ5には入っていなかった。

しかし、中国の米国商工会議所が発表したレポートの中で、「80%の会員企業が中国での歓迎度が下がっていると感じている」ことに対して、中国外交部の華春莹報道官は、「このレポートの発表時期には何らかの考えがあつたことなのか、情報が正確で全面的であるものかどうかは分からない」と発言。また華報道官は中国商務部の統計データを引用して、2016年米国の対中実際投資額は前年同期比で52.6%増となっており、「これは、中国が米国企業にとって依然として極めて魅力的であることを示している」と語った。

在中国米国商工会議所のウィリアム・ツァリット会長は、「米国市場の在米中国企業に対する開放度は、中国市場の在中米国企業に対する開放度よりはるかに高い」と考えている。

中国市場の魅力さをさらに高めるには、より開放するしかない。さもなければ在中米国企業の投資拡張意欲の低下には歯止めがかからなくなるだろう。

(『日系企業リーダー必読』編集長 陳言)